

広島県感染症発生動向月報

[広島県感染症予防研究調査会 感染症解析評価部会]
(平成14年6月解析分)

1 疾患別定点情報

定点把握(週報)四類感染症

平成14年5月分(4月29日~6月2日:5週間分)

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
1	インフルエンザ	38	0.06	0.08	↓	12	麻疹	12	0.03	0.35	
2	咽頭結膜熱	68	0.18	0.10	↑	13	流行性耳下腺炎	455	1.21	1.11	⇨
3	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	286	0.76	-	⇨	14	急性出血性結膜炎	2	0.02	0.06	
4	感染性胃腸炎	1,586	4.23	3.82	↘	15	流行性角結膜炎	130	1.30	1.32	⇨
5	水痘	597	1.59	1.74	⇨	16	急性脳炎	0	-	-	
6	手足口病	135	0.36	0.47	↗	17	細菌性髄膜炎	0	-	0.03	
7	伝染性紅斑	67	0.18	0.34	⇨	18	無菌性髄膜炎	3	0.03	0.19	
8	突発性発疹	261	0.70	0.66	⇨	19	マイコプラズマ肺炎	22	0.21	-	⇨
9	百日咳	4	0.01	0.03		20	クラミジア肺炎	0	-	-	
10	風疹	23	0.06	0.45	⇨	21	成人麻疹	0	-	-	
11	ヘルパンギーナ	276	0.74	0.33	↑	「過去5年平均」:過去5年間の同時期平均(定点当り)					

急増減	増減	微増減	横ばい
↑	↗	⇨	⇨
↓	↘	⇩	
前月と比較しておおむね1:2以上の増減	前月と比較しておおむね1:1.5~2の増減	前月と比較しておおむね1:1.1~1.5の増減	殆ど増減なし(発生件数少数のものを含む)

定点について

定点情報は、定点把握対象の四類感染症(週報対象21疾患,月報対象7疾患)について、県内186の定点医療機関からの報告を集計して作成しています。

	内科定点	小児科定点	眼科定点	STD 定点	基幹定点	合計
対象疾患 No.	1	1~13	14, 15	22~25	16~21, 26~28	
定点数	44	75	20	27	21	187

この情報は、「<http://www.pref.hiroshima.jp/fukushi/kenkou/kansen/index.html>」のホームページに掲載しています。
全国情報については、「<http://idsc.nih.go.jp/>」に
インフルエンザホームページは「<http://influenza-mhlw.sfc.wide.ad.jp/>」に掲載されています。

疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号	疾患No	疾患名	月間発生数	定点当り	過去5年平均	発生記号
22	性器クラミジア感染症	61	2.26	1.57	⇒	26	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染	108	5.14	-	⇨
23	性器ヘルペスウイルス感染症	15	0.56	0.59	⇒	27	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	60	2.86	-	⇒
24	尖圭コンジローム	14	0.52	0.32	⇨	28	薬剤耐性緑膿菌感染症	6	0.29	-	
25	淋菌感染症	36	1.33	1.09	⇨	「過去5年平均」：過去5年間の同時期平均（定点当り）					

インフルエンザ 急減（4月242件 5月38件） 咽頭結膜熱 急増（4月22件 5月68件）
 ヘルパンギーナ 急増（4月30件 5月276件）

2 一類・二類・三類感染症及び全数把握四類感染症発生状況

一類感染症 発生なし
 二類感染症 細菌性赤痢 2件発生（広島地域保健所管内 ソネ 相，福山市 ル杉社）
 三類感染症（腸管出血性大腸菌感染症） 5件発生
 （呉市O111 1件，広島市O26 1件，O111 1件，広島地域保健所管内2件 O26）
 全数把握四類感染症10件発生（アメーバ赤痢2件，急性ウイルス性肝炎2件（A，B型），オウム病2件，クロイツフェルト・ヤコブ病1件，ツツガムシ病1件，破傷風2件）

3 一般情報

腸管出血性大腸菌感染症（O157など）の予防
 梅雨に入り，O157などの感染症や食中毒が発生しやすい季節になりました。
 腸管出血性大腸菌感染症は，今年も県内ですでに16件（6月10日現在，内訳O157 4件，O26 10件，O111 2件），全国では575件（6月2日現在）発生しています。
 予防のため，次のことに注意しましょう。

- 1 食品の保存，運搬，調理に当たっては，衛生的に取扱い，汚染を防ぎましょう。
- 2 調理する際には，石けんで手をよく洗い，また調理器具は清潔にしてください。
- 3 加熱調理する食品は，十分に加熱し，生野菜などは流水で十分に洗ってください。
- 4 飲料水の衛生管理に気をつけてください。特に，井戸水や受水槽などは定期的に検査しましょう。

ヘルパンギーナ（水疱性咽頭炎）
 ヘルパンギーナは，主として乳幼児に流行する夏かぜの一種ですが，先月の30件（定点当り0.10）から今月は276件（定点当り0.74）と増加しています。
 例年9月頃まで流行しますので，注意が必要です。
 主としてコクサッキーAウイルスによる急性のウイルス感染症で，突発的に発熱（38～40℃）と咽頭に小さな水疱性丘疹を生じます。水疱疹は後に小さな潰瘍を形成するのが特徴です。
 感染者の鼻・のどの排泄物及び糞便との接触か，又は飛沫により感染します。従って予防対策としては，ヒトとヒトとの接触を少なくすること，手洗いなど日常の衛生保持が大切です。

参考図書：感染症予防必携（（財）日本公衆衛生協会 '99）